

| | | | |
|--------------|--------------|------------|------|
| 授業科目名 | 社会学(2000020) | | |
| 時間割名 | 社会学(31205) | | |
| 時間割担当 | 大淵裕美 | | |
| 実施期 | 後期 | 単位数 | 2 選択 |
| 曜日・時限 | 水・1 | | |

授業の目標・概要

身近な社会現象からさまざまな国・地域の文化、さらにはグローバルな問題にいたるまで、さまざまなトピックをおりまぜながら、社会学なものの見方を解説する。この社会的なもの見方によって、日常生活において当たり前のこととして経験しているものがまったく異なった様子で浮かび上がるだろう。本講義を通じて、社会的なもの見方を理解し、日常生活世界における様々な違和感や課題を発見し、社会学的方法で分析する力量の形成を目指す。

学習の到達目標

- ・社会学の基本的知識を修得することができる。
- ・複眼的思考・多角的アプローチなど、社会的なもの見方を理解し、実践することができる

授業方法・形式

講義形式に加えて、グループワークやディスカッションを行う。

授業計画

第1回 ガイダンス 社会学ってどんな学問？

第2回 自分と他人の関係ってどんなもの？

第3回 家族ってどんな社会？

第4回 福祉や教育はどうやって決まる？

第5回 地域社会は誰が作る？

第6回 働くってどういうこと？

第7回 私たちはメディアをどう使う？

第8回 性を意識するのはどんなとき？

第9回 エスニシティは身近にある？

第10回 格差がなくなるのはなぜ？

第11回 6次産業ってなんだろう？

第12回 広告からどんな社会の姿がみえる？

第13回 自然環境といかに向きあうか？

第14回 政治は政治家だけのものではない？

第15回 本講義のまとめ

成績評価の基準

- ・グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー、小テスト(40%)
- ・定期試験(60%)

準備学習・復習及び授業時間外の課題

各テーマに沿って、授業時間外に情報を集めたり事前に準備を必要がある。具体的には授業中に指示する。

履修上のアドバイス及び留意点

- ・「共生と社会」（「共生と日本社会」）と併せて履修すると学修が深まる。
- ・受講生の自らの経験や価値観といった「常識」をいったん横に置き、柔軟な思考力や多様な価値観を受け入れることが求められます。

教材・教科書

必要があれば適宜指示する。

参考書

難波功士、2018 『広告で社会学』 弘文堂 .

工藤保則・大山小夜・笠井賢紀編、2017 『基礎ゼミ 社会学』 世界思想社 .